

公民館だより Toyosato No.97

豊里公民館広報



令和3年5月1日発行

5 月号



スマホで簡単に検索
公民館ホームページ

豊里公民館

豊里こども園が開所 新しい園舎に響く元気な声

幼稚園と保育所の機能を併せ持った「登米市豊里こども園」が、豊里公民館の前に建ち、4月からスタートしました。登米市内には「こども園」が7か所ありますが、市が直接運営する施設はここが初めてとなります。



建物には地元産の木材がふんだんに使われています【写真下】



カメラにちょっと緊張した様子でしたが、だんだん笑顔に



みんな寝てるけど、まだ遊びたいの【写真左】

ボールで遊んだり走り回ったり元気いっぱい【写真下】

手をつなぎ、外遊びから帰って来たところを一枚



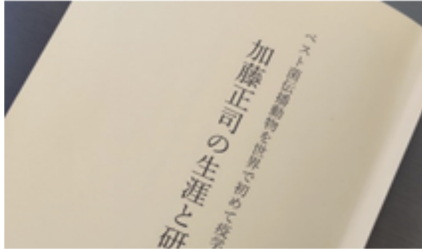
玄関を入ると斬新で開放的な空間が目を引きまます



町民の皆さんから募集している「あなたの素敵なお話かせてください」。今回は、公民館に寄贈された論文集を紹介し

高い志で生涯を駆け抜けた医師

保手出身・加藤正司さんの論文集が公民館に



今から約80年前、第二次世界大戦中に旧満州でまん延していたペストの撲滅と、その原因菌を絶対日本に侵入させられないとして、現地で研究に没頭した加藤正司さんという医師がいました。ペストはネズミやノミからヒトに移る、致死率の高い感染症として当時は大変恐れられていました。

加藤さんは1905年豊里村赤生津保手生まれ。旧制佐沼中学校在学中、学業成績は常に上位で、その傍ら柔道部の主将を務め、弱い者いじめを許さない豪傑な面を併せ持つ文武両道の生徒だったそうです。1935年に東北帝国大学医学部を卒業したと同時に、当時の国策に応じて満州に渡り、「吉林省前郭旗ペスト防疫所長」として国の重大な任務に当たりました。

防疫・治療と執念の研究の結果、当時あいまいだった世界の通説を覆し、撲滅の端緒をつかみました。そして加藤所長の研究成果により、ペストは「治療すれば治る病気」であることの理解が徐々に人々に広がり、ペストを制圧に導

いたそうです。

その後、終戦となって満州国は崩壊。難民化した十数万人の日本人の中でまん延していた発疹チフスの救済のため、不眠不休で活動する中、自らもこの病に倒れ、40歳という早過ぎる生涯を閉じました。

加藤さんの長男・加藤精也



病気から人々を救うことに全力を注いだ加藤正司さん

さん（東京都在住）が、その生涯や当時の論文をまとめ、このほど生家の現当主・加藤博久さん（保手）を通して公民館に寄贈されました。

「新型コロナとの共通課題も考えさせられる論文集です。興味のある方はご一読ください」とのことです。当時の現状がリアルに感じ取れる濃密な内容であり、また、亡くなる直前には子どもたちを呼び「皆をポケットに入れて連れていきたい」と、いつまでも家族を愛し続けた人柄が感じ取れるエピソードなどもちりばめられています。手書きの研究資料など、大変貴重な内容です。論文集【写真左上】は公民館図書コーナーで見ることができます。

ちょこっとエピソード



取材に行った際、博久さんが立たたお茶がとてもおいしかったです

自宅で“桜祭り”

『平筒沼ふれあい公園桜祭り』は今年も中止となり残念ですが、平筒沼をはじめ町内各所の桜を写真に収めてきました。

公民館のホームページにたくさん掲載していますので、「ステイホーム・花見」を楽しんで下さい。



コードを読み取ると豊里公民館ホームページの桜の記事が見られます。または「豊里公民館」でも検索できます。

—人事異動—

集落支援員の交代があり、西條ひかる（加々巻）が新たに任命されました。よろしくお願いいたします。